

＜2024年度（R6年度）＞

第17回 地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会を開催しました

本交流会は、「おおいた教育の日」の趣旨に賛同して、県教育委員会や県内のほとんどの市町村からの発表をいただきながら開催してきました。第17回交流会も学校関係者等の参加をいただいて予定通りのプログラム（情報交換会を含む）で開催することができましたが、今年の梅は蕾が見える程度で残念ながら梅の花を見ることはできませんでした。

近年、特に文部科学省及び県教育委員会においては、地域と学校との協働を進めるシステムづくりのために学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の導入と、地域学校協働本部による地域学校協働活動を促進しており、本交流会においても近年は「学校運営協議会制度」を中心に実施してきました。今大会はこれまでの交流会の成果と課題を整理して、学校運営への効果の視点から「学校運営協議会制度」について考えていくこととし、52名の参加者が互いに交流し、活動エネルギーを蓄える交流会にすることが出来ました。

交流会の冒頭に本交流会の開催を後押ししていただいた「中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会」の大島まな代表世話人に、産みの親・育ての親である三浦清一郎先生（一昨年11月にご逝去）の想いを紹介していただき、改めて本交流会の役割を認識することができました。



- テ ー マ 学校運営協議会制度の導入による「地域とともにある学校」づくりのための学校運営の効果を考える
- 主 催 東国東地域デザイン会議／大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター／NPO法人大分県協育アドバイザーネット
- 会 場 「梅園の里」（国東市安岐町富清2244）☆梅が咲き誇る三浦梅園生誕の地☆
- 期 日 令和7年（2025年）2月22日（土）
- 参 加 者 52名（教職員・コーディネーター・行政職員・地域住民・研究者等）

■10:00 開会行事

■10:30～12:00 第1部 基調報告

テーマ：「歴史があって今がある」大分県版「教育の協働（協育）」への歩みを振りかえる

要 旨：教育の協働への「歴史があって今がある」をテーマに、学校週5日制度の導入から地域学校協働活動までの様々な施策や事業を国の施策と全国の状況を交えて、大分県の取組みを振り返ってみます。

報告者：NPO法人大分県協育アドバイザーネット 中川 忠宣 理事長

【概要】

<報告1>「教育の協働」への様々な施策の始まり

学校週5日制が平成4年9月12日に開始され、地域での受け皿づくりや抽象的な施策の趣旨等で、現場での取組み・仕組みにはギャップがあった。しかし、その後の総合的な学習の時間や学校評価、コミュニティ・スクールの設立などの動きの中で学校と地域との関係作りが課題になってきた。

<報告2>大分県版「地域協育振興プラン」の策定と推進

大分県での取組みの始まりは「大分教育の日条例」（平成17年3月31日施行）



であり、学校・家庭・地域の3つの力を合わせて育むという趣旨を表すため「協育」という造語を考案した。さらに、民間活力による「大分教育の日条例」の推進が求められ、平成19年2月に第1回地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会を開催した。大分県教育委員会は「地域協育振興プラン」を策定に向けて、関係各課の意思疎通と一体的な推進のために、具体的には①情報の共有、②コーディネーター、③公民館をキーワードとして、平成17年度から地域協育振興モデル事業を実施（県単費1,000万）した。基本的な「協育ネットワークシステム」の3層構造（市町村に地域協育プロジェクト会議を設置し地域協育コーディネーターを配置、中学校区に校区ネットワーク会議を設置し（公民館が拠点）校区コーディネーターを配置、学校に学校支援ネットを設置しコーディネーターを配置）を提案して推進した。学校支援地域本部事業（国）（平成20年度から）の実施により全県的な取組みに発展した。

＜報告3＞コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の推進

当初、学校の多忙化等の懸念から反対も多かったが、学校運営協議会の仕組みが徐々に作られていった。

＜報告4＞地域学校協働活動の制度化

学校運営協議会制度と地域学校協働本部のそれぞれの活動の一体的推進は可能か？学校教育の制度では義務的に実施できる制度があるが、地域学校協働本部を実施する社会教育では努力義務規定などで実施の基盤が弱い等の課題も大きい。

＜報告5＞実践事例

※東京都杉並区、新潟県上越市、別府市石垣小学校の事例を紹介した。

■13:00～15:50 第2部 校長がコミュニティスクールを語る（事例報告）

＜統一テーマ＞学校運営協議会制度による学校運営への効果について

＜1＞13:05～13:40

＜報告者＞ 別府市立石垣小学校 勝河 馨 校長

学校運営への効果としては、①環境づくり（子ども110番、あいさつ運動、意見交流会、家庭教育のアップデート表、教職員の負担軽減、地域学校協働活動推進員）、②学校支援（朝先生、ミシン先生、読み聞かせ、七輪パーティー等）であり、それぞれの活動について学校運営協議会で協議しながら進めている。また、学校運営協議会が中心となって毎年教職員・地域住民・保護者の意見交流会を開催してアイデアの出し合いや、今後の取組みの方向性を協議しており、次のような活動をしてきた。

2019～2020 地域に開かれた教育課程（協働活動カード作成）

2021～2022 教職員の心身ともにゆとりを生む活動

2023～2025 今、家庭の出番をアップデート

校長にとっては学校経営のために無くてはならない存在である。

＜2＞13:45～14:20

＜報告者＞ 中津市立本耶馬溪中学校 小川 邦夫 校長

学校教育目標を「地域を愛し 心豊かでたくましく 共に学ぼうとする生徒の育成」とし、目指す学校の姿は「地域に愛され地域に求められる学校」であり、目指す生徒の資質・能力は「人間関係形成能力」である。

取組みの視点として、①地域社会と連携した「ふるさとを愛する生徒の育成」を図るための学校体制づくり、②地域の教育資源を活用したカリキュラム・マネジメントの在り方、③学校運営協議会や



「協育」ネットワーク会議と連携して取り組んだ地域とともにある学校づくりを進めており、学校運営協議会や校区ネットワーク会議、青少年健全育成会議、卒業生による応援体制づくりも大切な組織である。

《 3 》14:35～15:10

〈報告者〉 国東市立安岐中央小学校 徳丸 将 校長

学校教育目標は「郷土に誇りをもち、夢や目標に向かって主体的に取り組む中央っ子の育成」である。

学校運営協議会での熟議から、子どもたちの課題（自立・自律、多様性、たくましさ、コミュニケーション、素直さ、家庭・地域の一員）、地域の課題（交流が減った、高齢化、少子化、学校・子どもへの関心、あいさつ・声かけ、地域の偏見）を整理して取り組んでいる。

コミュニティ・スクールの取組みとしては、行事への参加（梅園先生墓掃除、梅園祭）、ボランティア活動（ちょボラデー）、クラブ活動への参加（室内遊びクラブ、パソコンクラブ）、ほかにも読み聞かせやぐんぐんタイム、学びの教室、子どもの安全確保、七島蘭・リースづくり、しいたけコマ打ち・収穫などがある。

学校運営協議会の取組みにより、地域全体で『こどもまんなか』の教育活動ができており、先生方の働き方改革にもつながり、学校教育目標の自主的・主体的に考え行動することを推進できる。

《 4 》15:15～15:50

〈報告者〉 臼杵市立臼杵南小学校 後藤 裕之 校長

報告①学校運営協議会の現状

学校運営協議会は年3回で、外部評価委員会と一緒に開催するので地域学校協働活動を検討する機会が不十分であり、学校の理解不足もあるが、余裕のなさも大きい。

保護者発案企画（段ボールキャンプ）を実現した。地域の行事として実施し、学校は一切手も口も出さず、PTAの企画で実施した。

報告②家庭・地域の力

学校行事の南っ子まつりと、地域行事の地域豊作秋祭りを同日開催（共催でも合同開催でもなく）して、別々に運営しつつ相乗効果を生み出す行事であり、各々の当事者意識や満足感が生まれている。しかし、思いを共有し共感する場がないので、ばらばらの状態もあり、まずは個別的連携を進め、そのあと学校運営協議会の導入に結び付けていきたい。

学校運営協議会制度による学校運営への効果として、地域の教材が集まる、地域の人材が集まる、アイディアが見つかる、思いを共有できるなどがあり、とても有効である。協働に向けての留意点もある。周到的準備が必要であり、役割分担を明確にし、意を同じくするメンバーで実施することが大切である。準備が足りないと学校が負担を負うことになる。今後、学校は家庭・地域に火をつけ、受け入れる胆力も必要である。

■16:00～16:50 第3部 全体協議

テーマ：事例から「地域とともにある学校」づくりのための地域社会の出番を考える

【コーディネーター】大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター 岡田 正彦 教授

参加者から以下のような質問や情報交換があり、多くの課題を持ちながら取り組んでいることが見えてきた。明確な回答や実践は中々見えないが、今後の研修のテーマとしたい。

○協働の推進に関すること

教育関係者、親、地域とともに地域学校協働活動に対する意識が非常に薄い。公民館長自身自分が協育コーディネーターであることを知らないなど。PTAとの関係性が不明瞭でしっくりしていない。学校運営協議会委員の研修が各行政区でどのように行われているか知りたい。



→コミュニティ・スクール研修会の今後の進め方について、これまで講義を受けて学ぶことを基調にやってきたが、今後協議で意見交換を行うことを中心に転換を図る時期に来ている。（国東市の例）

○学社連携・協働に関すること

ずっと前から学社連携と言われてい

るが、縦割りが強いため地域学校協働活動が進まない。どうしたら解決するか？コミュニティ・スクールや地域学校協働活動に対する教員の理解が深まらず、地域学校協働活動が「学校支援」にとどまっているのが現状ではないか。

○学校運営協議会の委員の選任に関すること

学校運営協議会の委員として地域のどのような役職がよりベターなのか教えていただきたい。（役職なのか、その人の人格や活動なのか）

○コーディネーターの活動に関すること

学校運営協議会委員とコーディネーターとして、学校ニーズに応え提案して活動しているが、担当課からの指導もあり困惑することがある。地域学校協働活動の適正な活動量がわからない。

○防災・災害に関すること

大分県では南海トラフ地震への意識が高いと推察するが、学校と地域が防災面・災害対応面で連携・協働している例はあるか。（熊本県の参加者）

○協育ネットワークの活用に関すること

協育ネットワークの仕組みを生かした家庭教育支援の在り方や活性化について協議したい。学校・家庭・地域による教育の協働が家庭教育にもたらすメリットとして家庭教育が支援されることが重要と考える。

○今後の方向性に関すること

世の中の在り方として「何が無駄かの答えも持ち合わせないのにとにかく無駄を削減したがる」、「多くの人が目先の損得勘定で動いてしまう」風潮があるが、「本当に大事にしなければならないこと」をみんなで考えられるようにするためにはどんなことをすればよいか。

○学校教育と社会教育の連携に関すること

学校教育（学習指導要領など明確な教育課程を確実に効果的に行う必要）と社会教育（公民館活動で何をどこまでやるかの自由度とゴールの見えにくさ）との連携で何が問題になり、どのようにすれば解決できるかという大きな課題がある。

○社会教育士に関すること

「社会教育士」という資格制度が生まれ地域社会や企業などで活用されようとしている。社会教育主事の立場からは社会教育士という言葉がなじめないし、どれほどのニーズがあるのか、また働きかけをしているのか現状と今後の展望を知りたい。



■最後に、来年も2月の最終土曜日（2月28日）にお会いできることを楽しみにして閉会しました。さらに、情報交換会でも来年度の再会を誓いながら楽しい1日の交流会を終わることができました。参加者の皆さん、関係者の皆さんに心から感謝申し上げます。＜主催者一同＞